

授業科目 運動病態学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
久保雅義、地神裕史、非常勤講師		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 様々な症状を呈する対象者（患者、障害者）の評価を実施し、評価結果を統合・解釈するためには、そのような症状を呈している原因を運動学・病態学の知識に基づいて臨床的に推論する能力が必要となる。 本講義によって、臨床場面において観察される病的な運動や異常動作の原因を運動学・病態学の知識に基づいて推察する能力を修得する。					
【学習目標】 1. 運動病態学の概念が理解できる 2. 動作分析に必要な正しい運動学用語を列挙できる 3. 動作分析に必要なバイオメカニクスを理解できる 4. 随意運動と不随意運動のメカニズムについて理解できる 5. いくつかの代表的な疾患における異常動作を観察できる 6. 正常動作と異常動作の違いを説明できる 7. 異常動作の原因を運動学・病態学の知識に基づいて推察できる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	運動病態学の概念			1	講義、担当：久保 雅義
2	動作分析に必要な解剖学・運動学用語			2	講義、担当：久保 雅義
3	動作分析に必要な臨床運動学 1			3	講義、担当：久保 雅義
4	動作分析に必要な臨床運動学 2			3	講義、担当：久保 雅義
5	随意運動のメカニズム			4	講義、担当：非常勤講師
6	不随意運動の種類とそのメカニズム			4	講義、担当：非常勤講師
7	運動制御			4	講義、担当：地神 裕史
8	姿勢の異常			5～7	講義、担当：地神 裕史
9	整形外科疾患における異常動作と病態理解 1			5～7	講義、担当：非常勤講師
10	整形外科疾患における異常動作と病態理解 2			5～7	講義、担当：非常勤講師
11	中枢神経疾患における異常動作と病態理解 1			5～7	講義、担当：非常勤講師
12	中枢神経疾患における異常動作と病態理解 2			5～7	講義、担当：非常勤講師
13	その他の疾患における異常動作と病態理解 1			5～7	講義、担当：地神 裕史
14	その他の疾患における異常動作と病態理解 2			5～7	講義、担当：地神 裕史
15	まとめ			1～7	講義、担当：地神 裕史
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床運動学 第3版		中村隆一 編	医歯薬出版 2002・7,560円
参考書		ケースで学ぶ理学療法臨床思考-臨床推論能力スキルアップ 運動制御と運動学習		嶋田智明 編 藤田潔、森茂美、大島知一 他	文光堂 2006・6,500円 協同医書出版社 1997・6,510円
その他の資料		資料配付			
【評価方法】 出席、レポート、小テスト、期末試験			【履修上の留意点】 教科書の予習を必ず行う		